平成28年
8月19日開催

みえ高校生県議会 開催レポート

広聴広報活動の一環として、高校生が議会活動を体験することで議会に対する関心を高めてもらうとともに、高校生の意見を直接聴くことで、議会での議論に反映していくことを目的に、「みえ高校生県議会」を開催しました。

県内の高校などを対象に参加校を募集し、応募のあった全16校から、52人の高校生が県政に関する質問を行いました。

当日の様子は三重県議会HPにて録画中継により視聴することができます。
動画には手話通訳が付いています。

聾学校

井上葉月議員、松本夏妃議員、奥谷波奈議員、河口実沙紀議員

Q 聴覚障がい者を取り巻く環境について

質問　聴覚障がいがある私たちは、普段の暮らしの中で、バスや電車の放送が分からない、日本語の映画に字幕付きのものが少ないなど、文字情報が少なくて困ることがあります。乗車中に電車が急に止まり、状況が分からないまま待つしかなかったという体験をした人もいます。ぜひとも、県には先頭に立って、世の中に文字情報を普及させることによって、障がい者に優しい環境づくりを率先して進めていってほしいと願っています。県は文字情報を普及させるためにどのような取り組みを行っていますか。

A 答弁　健康福祉病院常任委員長（小島智子）

県では、三重県聴覚障害者支援センターで、映像に字幕をつけた映像ライブラリーの制作や貸し出し等を行っていますが、普段の暮らしの中での文字情報の提供は、まだまだこれからの状況と感じます。このような状況の中、本年4月に障害者差別解消法が施行され、障がいがある方への「不当な差別的取扱い」をしないこと、そして「合理的な配慮」をすることが求められています。委員会としても、障がいのある方もない方も、みんなが住みやすい社会をつくりあげるために、県当局と議論していきます。

学法津田学園高等学校

甲斐統梧議員、真野竜輝議員

Q 三重県のPR活動に関して

質問　地域ブランド調査の魅力度ランキングによると、三重県は47都道府県中27位です。また、本校の全生徒に行ったアンケート調査では、ほとんどの生徒が三重県のことを好きなのに、将来の進路先、就職先、居住地としては県外を選択する人が多いという結果でした。三重県には素晴らしいところがたくさんあるのに、それが十分に伝わっていないというのが現状ではないかと感じます。今後、若い世代に対して、将来三重県に住みたいと思うように、三重県の魅力をどのようにアピールしていくつもりですか。

A 答弁　戦略企画雇用経済常任委員長（石田成生）

三重県で働き、暮らすことの魅力や県内の高等教育機関の魅力を、うまく伝え切れていないという現状を踏まえ、本委員会では、広聴広報の充実について重点的に調査することとしています。県では漫画で三重の魅力を伝える冊子の作成をするなど、若い世代へのアピールを始めていますが、本委員会としても、民間の広報の先進事例の視察等を行い、新しい広報媒体の活用の提案や、思い切った切り口による新たな広報活動の展開など、将来の県広報の枠組みにとどまらないような議論を深めていきたいと考えています。

四日市南高等学校

服部孝太郎議員、内田歌凜議員、林亜海議員

Q 三重の高校生の英語力（コミュニケーション力）向上について

質問　今年の伊勢志摩サミット、2020年の東京オリンピックなど、国際的なイベントに参加する機会が増えているにもかかわらず、高校で本物の英語に関わる機会が少ないと感じます。私たちの高校では、1年次に2週間に一度、ＡＬＴ(外国語指導助手)による授業があるだけで、２年次と３年次にはまったくありません。授業以外でも、他国の人と交流する機会はほとんどありません。県では、高校生がグローバル化に対応できるよう、どのようにして英語力を高めていこうと考えていますか。

A 答弁　教育警察常任委員長（村林聡）

グローバル教育の重要性は認識しており、県では、英語キャンプや、海外留学への支援などを行っています。しかし、本物の英語にふれる機会が少なく不安だという声があるということを受け止め、委員会としても、どこに問題があるのかを探っていきたいと思います。また、生徒の皆さんも生徒会を通じて学校と話をしていただくなど、英語力向上の取り組みがより良いものになっていくよう、一緒に行動していただきたいと思います。

神戸高等学校

真弓大芽議員、名倉鈴紗議員、鎌田真生議員

Q 奨学金制度について

質問　多くの学生が奨学金を利用して大学に進学しています。しかし、奨学金のほとんどが「貸与」であり、低賃金や不安定な雇用が増加する中では、利用者が返済困難に陥りやすく、返済のために人生を狂わすケースも多く見られます。教育の受益者は社会全体であり、親の経済力によって多額の借金を背負わねばならない現状は公平ではありません。三重県内の大学だけでも授業料を引き下げたり、「給付」または「無利子」の奨学金を受け取れる人の範囲を増やすなどの支援はできないでしょうか。

A 答弁　子どもの貧困対策調査特別委員長（藤根正典）

県議会は、本年３月に給付型奨学金制度の創設等を求める意見書を、内閣総理大臣に提出しました。県は、若者の県内定着のインセンティブとして、大学生等の奨学金の返還額の一部を助成する制度の創設を検討しています。国も、公的な給付型奨学金創設の議論が始まりました。委員会としては、公的な給付型奨学金制度のあり方等について議論するとともに、必要に応じて国への働きかけも検討するなど、経済的な理由により、学びの機会が奪われるという社会的損失を防ぐための手法を検討していきたいと考えています。

桑名高等学校

宇野陽香議員、山口朱音議員、内田万鈴議員、島田花恋議員

Q 看護師の人材確保について

質問　日進月歩の医療技術に対応するため、看護師には継続学習が必要です。女性の多い職である看護師は、結婚、出産、子育てのために離職する場合があり、復帰についての不安があります。また、女性の多い職ではありますが、男性看護師を必要とする現場でもあり、男性看護師が増えることで、産休、育休等の環境を整えることができるのではと考えます。看護師の産休、育休等からの復職支援や、看護師を目指す人が増える仕組みづくりなど、看護師確保のための県の取り組みについて聞かせてください。

A 答弁　健康福祉病院常任委員長（小島智子）

県では、看護師が産休から復職しやすく、子育て中も仕事を続けられるように、病院内保育所の設置の支援などの取り組みを行っています。また、看護師の仕事の素晴らしさを伝えられるよう、「みえ看護フェスタ」や１日看護体験等の中高生対象のイベントの開催や、中学校や高校での看護師の出前授業の取り組みなども進めています。今後は、男子中高生にも積極的にイベントへの参加を働きかけ、看護現場のＰＲを行いたいと考えています。委員会でも、しっかりと議論を深め、具体的な取り組みにつなげていきたいと思います。

いなべ総合学園高等学校

海老原未来議員、岡本梨花議員、多湖純平議員、山岡里彩議員

Q 県民に向けた介護サービス等の情報発信のあり方について

質問　地域の人にアンケート調査を行ったところ、自分や家族の介護に不安や関心があるにもかかわらず、その不安を解消するための介護保険等の情報が行き渡っていないことが分かりました。アンケートでは、地域の情報を地域情報誌から得ている人が多いので、地域情報誌に介護が必要になったときの相談先などを掲載してはいかがですか。また、インターネットで医療情報を提供している「医療ネットみえ」のように、「介護ネットみえ」をつくり、介護保険等の情報を発信してはいかがですか。

A 答弁　健康福祉病院常任委員長（小島智子）

皆さんのアンケート結果では、介護について相談できる場所が分からないという答えが多いということなので、きちんと県民の方に情報が届くように、広報の仕方に工夫が必要だと考えます。ご提案いただいた地域広報誌やインターネットの活用については、とてもいい提案だと思います。しかし、介護情報を必要としている人は幅広い世代に渡りますので、どの方法が一番効果的かを答えるのは難しいところです。いただいた提案は県と市町の連絡会等で伝えるとともに、委員会としても、いただいた提案を参考に、十分議論を深めていきたいと思います。

津高等学校

松林由起議員、松林里歩議員、福島彩花議員

Q 将来の三重県を担う青少年の育成について

質問　三重県の人口減少を食い止めるためには、若者が三重の魅力を十分に感じることが大切であり、教育の一環として三重県の良さを伝えていくべきだと思います。その教育は、先生が三重県の話をするといった受け身のものではなく、生徒がインターネットや書籍を通して調べ、現地を訪問したり、祭りに参加したりして、主体的に体験を通して知るものであるべきです。主体的に三重県を知ることができれば、三重県に貢献したいと思う人が増えると思いますが、いかがですか。

A 答弁　教育警察常任委員長（村林聡）

県では、子どもたちが楽しく三重の自然、歴史等を學べるように「ふるさと三重かるた」を作成・配布し、身近な地域に関わる教材を提供して活用する取り組みを進めています。また、自分の住む地域の課題を解決するため、高校生が地域に出向き、地域住民と協議しながら取り組みを進めている高校もあり、県も支援しています。しかし、人口流出の激しい地域の小規模な高校での取り組みが多いので、都市部の高校や大規模な進学校での取り組みについて、委員会としても議論を深めていきたいと思います。

高田高等学校

梅村一太朗議員、稲葉雅紀議員、石川沙歩議員

Q 三重の高校生サミット定期開催の提案

質問　三重の高校生サミットに参加し、「学生たちの交流の場」「ディスカッションの場」「一人ひとりに夢を与える場」という重要な３つの場がそこにあると感じました。そこで３つの提案があります。１つ目は「三重の高校生サミットのような県公認学生ディスカッション機関の定期開催」、２つ目は「県内でのディスカッションを用いた教育の活発化」、３つ目は「学生ディスカッション機関と県議会の連携」です。このような教育改革を進めることは、三重の地域活力の向上などにつながると考えますが、いかがですか。

A 答弁　教育警察常任委員長（村林聡）

県では、平成26年度から学校の枠を超えたディスカッションを行う交流の場として「みえ未来人育成塾」を開催しており、来年度以降も何らかの形で継続する方向だと聞いています。皆さんからの提案を踏まえ、委員会としても、より良い議論の場がつくられるよう議論していきたいと思います。また、県議会では、「みえ高校生県議会」のほかにも「みえ県議会出前講座」や「みえ現場de県議会」など、県民の皆さんから様々な意見や提案を聞かせていただく場がありますので、そのような場にもぜひ積極的に参加してください。

川越高等学校

西本梨乃議員、水谷元紀議員、川本陽菜議員、渡辺羽帆議員

Q 学校の安全確保について

質問　川越高校では、最寄り駅から学校までの通学路に街灯が少なく、不審者による被害を受ける生徒が絶えません。また、校内で金品盗難や自販機荒らしなどの事件も起きています。生徒会では安全意識の向上をテーマに活動しており、自転車のツーロック呼びかけ運動などを行っていますが、生徒の安全を守るためには生徒だけでは限界があります。県立高校の周辺に犯罪抑止効果の高いブルーライトなどの街灯を設置したり、校内に防犯カメラやモニターフォンなどを設置したりすることはできませんか。

A 答弁　環境生活農林水産常任委員長（彦坂公之）

ブルーライトなどの街灯については、道路管理者の県、市などが必要性を判断して設置します。防犯カメラについては、各学校から提出される設置計画を検討し、必要に応じて整備を行いますが、生徒や近隣住民のプライバシーの問題もあり、関係者の理解が得られることが重要です。モニターフォンについては、学校の判断で設置することが可能です。いずれにしても、一人ひとりが防犯意識を持つことが一番大切であり、生徒会の活動をぜひ継続して取り組んでいただきたいと思います。

暁高等学校

服部源太郎議員、後藤海斗議員、落合杏馬議員、山中築樹議員

Q 「伊勢志摩サミット」後のグローバル化について

質問　伊勢志摩サミットの開催で世界中が三重県に注目しており、この機をとらえ、サミットを誘致したという強みを生かして三重の強みや魅力を発信すべきです。今後、三重県のさらなる国際的な発展や知名度の上昇が見込めると思いますが、これまでのサミット開催地の前例を教訓に、サミットの効果を持続させていくことが大切だと思います。県では、三重の国際化をどのように推進していくつもりですか。また、今後、サミットの効果が見込めなくなった場合、次の政策はどのようなものを考えていますか。

A 答弁　サミットを契機とした地域の総合力向上調査特別委員長（中嶋規）

サミット開催により地域にもたらされた有形無形の好影響（レガシー）を生かした取り組みを加速させる一方、その効果が一時的とならないよう、県民、企業、市町、県などの多様な主体が方向を一つにし、それぞれが動きやすい仕組みを作り上げることが必要だと考えています。サミット後のグローバル化については、三重県が従来から有していた強みと、サミットの経験で得られた強みを融合させ、長く効果が持続すると期待される事業にオール三重県で腰を据えて取り組んでいく必要があり、委員会でも議論を深めていきます。

東紀州くろしお学園

東龍一議員、檜尾拡議員、景山傍太議員

Q 東紀州地域における雇用促進について

質問　東紀州くろしお学園の生徒にとって、職場実習は事業者と生徒がお互いを知る大切な場であり、マッチングの確認により就労に結びつきます。県では、特別支援学校の生徒を対象に、県庁内での職場実習の受け入れや、津での採用試験を行っていると聞いていますが、東紀州地域の生徒にとっては、地理的にも時間的にも遠く、現実的なものではありません。東紀州地域にある県の関係機関での療育手帳を所持した生徒の職場実習の受け入れや、職員採用について取り組んでもらうことを希望しますが、いかがですか。

A 答弁　総務地域連携常任委員長（大久保孝栄）

食堂などの３カ所で実施している県庁内事業所の職場実習は、障がい者雇用に関する理解や啓発を図り、新たな雇用機会を創出するためのモデルケースとしてはじめたものです。職員採用については、制度上、東紀州地域を採用枠として設定することは困難ですが、障がい者雇用の促進に向けて、計画的な採用に努める必要があると考えています。委員会としても、皆さんの働く意欲を住み慣れた地域で十分生かしていくことができるよう、県の雇用促進の取り組みなどについて、しっかりと議論していきたいと考えています。

津東高等学校

内藤雅大議員、野﨑行真議員

Q 通学路の危険性について

質問　津東高校周辺の道路は、多くの小中学生、高校生が通学路として行き交い、道幅は狭く、ガードレール等の設備も不十分であり、いつ事故が起きても不思議ではないような大変危険な状況にあります。また、高校生の自転車の乗り方にも問題があり、生徒会でも交通マナーの意識の向上に取り組もうと考えています。県内には他にも危険な通学路があると思いますが、県では危険な通学路の実態について把握していますか。また、これまでどのような対策をとってきましたか。

A 答弁　環境生活農林水産常任委員長（彦坂公之）

平成24年以降、全国規模で公立小学校等の通学路の緊急合同点検が行われ、安全対策が必要とされた箇所の対策は、ほぼすべて完了しました。また、県の教育委員会では独自に県立高校等の通学経路の安全点検を実施し、現地確認を行った資料をまとめ、平成28年度から、改めて県立高校を対象に行う予定の通学経路にかかる調査に活用することとしています。生徒会の交通マナーの意識向上の取り組みは非常に効果があると考えており、委員会でも、通学路の安全対策等について、しっかりと議論していきたいと考えています。

木本高等学校

紀北綾夏議員、川口真央議員

Q 東紀州の活性化について

質問　熊野市では高齢化が深刻ですが、健康長寿はすばらしいことであり、むしろ、少子化や若年層の減少が問題だと思います。木本高校でのアンケートで、「大人になってから、熊野に戻ってきて住み続けたいか」という質問に、大多数の生徒が「戻らない」と回答しました。熊野の若者が将来戻ってきたくなるには、企業誘致や起業の促進により働く場所を増やすこと、医療と教育の充実により子育て支援を充実すること、文化施設を充実することなどの方法があると思います。東紀州地域の活性化について、どのように考えていますか。

A 答弁　総務地域連携常任委員長（大久保孝栄）

生まれ育った地域に住み続けるためにどうすればいいのかについて、様々な提案をいただきました。委員会でも、今年の重点調査項目として、移住の促進や南部地域の活性化を掲げており、東紀州地域をもっと活性化していきたいと考えています。そのためにも、すばらしい提案をしていただいた皆さんの力が必要です。県でも東紀州地域の活性化に向けた様々な取り組みを進めていきますが、ぜひ、皆さんも地域の魅力を発見し、広く情報発信するなど、地域の活性化に一緒になって携わっていただくことを期待しています。

セントヨゼフ女子学園高等学校

草川史織議員、江藤里桜議員、西川天海議員、永倉菜々美議員

Q 三重県における待機児童問題の現状について

質問　国が推進する「一億総活躍社会」の実現には人口の半分を占める女性の活躍が必要不可欠ですが、女性の社会参画は諸外国と比べて低いのが現状です。学校では、自立した女性として社会に貢献できるように学んでいますが、女性の社会参画を阻む問題が数多くあるようであり、その一つが待機児童の問題です。国会の議論の中でも、様々な取り組みが検討され始めているようです。三重県内の待機児童数の現状と、待機児童をゼロにするための方策を聞かせてください。

A 答弁　健康福祉病院常任委員長（小島智子）

県内の待機児童数は、平成27年４月１日現在で98人、同年10月１日現在では412人であり、それぞれ1年前と比較して50人増加しています。県では、待機児童解消に向けて、施設整備や、待機児童となりやすい０～２歳児を対象とした家庭的保育、事業所内保育などの地域型保育事業の創設などを推進しています。このほか、私立保育所の支援、保育士の就職相談なども実施しています。県では平成31年度に待機児童をゼロとする目標を立てており、女性が社会参画できる環境整備をという皆さんのご意見も踏まえ、委員会でも、しっかりと調査を行っていきたいと考えています。

名張西高等学校

中森光基議員、伊東真由議員、松山清美議員、山下まみ議員

Q 伊賀地区の観光政策について

質問　伊賀地区を訪れる観光客の多くが車を使用していますが、伊賀地区の道路は決して整っているとは言えません。伊賀市では名阪国道以外は狭い道路が多く、名張市では高速道路もなく主要道路は朝の通勤時間帯には非常に渋滞しています。また、鉄道を使って観光する場合、伊賀の忍者服数に行くには伊賀鉄道を利用しますが、伊賀鉄道は乗り換えに不便な電車です。伊賀地区の観光基盤としての道路、鉄道の利便性の向上について、現在の取組状況と今後の進め方を聞かせてください。

A 答弁　防災県土整備企業常任委員長（下野幸助）

道路整備については、国道368号（一部区間）の４車線化の整備を進めています。また、名神名阪連絡道路の早期事業化について国に要望しているところです。伊賀鉄道については、平成29年度から、伊賀市が近鉄から施設や車両などを譲り受け、伊賀鉄道株式会社が運営する方式で存続することが決まっており、県としては、安全な輸送を継続するために必要な設備整備に対して補助金を交付するなどの支援を行うこととしています。より良い交通基盤が整えられるよう、委員会でも後もしっかりと議論していきたいと考えています。

三重高等学校

松林臣議員、須崎俊斗議員、北村龍之介議員

Q 交流人口の増加による地域活性化

質問　地域活性化のためには人口増加が必要であり、海外の都市と協定を結び、外国人の定住を促進するべきです。しかし、いきなり定住は難しいので、まずはショートステイを通じて三重県のことを知っている人を増やし、帰国後に三重県の情報を広めてもらえれば、そのことで観光客が増加し、地域活性化が進むのではないでしょうか。そのために、県や市町の姉妹都市の人が三重県に滞在する費用に対する補助金を創設するなど、交流人口増加に向けての新たな政策を行うことはできませんか。

A 答弁　戦略企画雇用経済常任委員長（石田成生）

個人の旅行費用の一部を負担する補助金を新設することは難しいと思われますが、県では、交流人口増加のために、海外から会議等を誘致する補助金を新しく設けています。国際会議は会議室だけで完結するものではなく、三重県の魅力を知ってもらう絶好の機会であり、経済や広報の効果も大きいことから、国際会議等の誘致に力を入れることは有効だと考えています。その他にも、海外からの体験・学習旅行にも可能性を感じており、委員会でも先進地を視察するなどして議論を深めていきたいと考えています。

当日の様子

オリエンテーション後、リハーサルを行いました

議長室で記念撮影

議事堂内の見学も行いました

4人の高校生が交替で議長役を務めました

パネル資料を使って説明

自分たちで考えた質問を行いました

参加した高校生の感想

- ○内容も濃く、とても良い会議でした。
- ○とても楽しかったです。他の高校生の答弁もすごくためになりました。また、参加したいと思いました。
- ○素晴らしく、委員長の人柄、熱意を感じたし、県議会がどのように為されているか、体感できたことを嬉しく思います。
- ○それぞれ高校によって視点が違っていて面白かったです。
- ○もっと積極的に大人と学生がつながれる場をつくってほしいです。

傍聴者の感想

- ○若者に政治への関心を持ってもらうには良い機会だと思います。
- ○高校生が質問するのにあたって、すごく調査していたので感心しました。
- ○高校生たちの真剣な意見が伺えてよかったです。高校生からいろいろ教えてもらいました。これからも継続されればと思います。